

未来の教育の本質がわかれば、明日の授業ですべきことが見えてくる

# アクティブラーナー→

教育の未来を育む校長先生のためのマガジン

若手の先生にオススメ

教師の学び深まる  
5つのアイデア  
ご案内付き

<特別号>

# 夢中になる授業 退屈になる授業

【特集】日本の教育における**本当の危機**とは？

## 授業を楽しむ！

もっと早く出会いたかった…。  
教員生活35年目にして  
『あの授業』を知ってから、  
定年までのわずか2年では  
ありませんが、  
生徒よりも私自身が  
授業を楽しみました。  
だから、もっと多くの若い先生に  
伝えたいのです。



もう授業をしたくない…。  
初任者だった私は  
そんな考えがよぎりました。  
寝る、ペンで遊ぶ、  
勝手に塾の課題をする。  
しかし、『あの授業』との出会いが  
全てを変え、  
今は教室へ行くのが  
楽しみになりました。



## 授業が怖い！



ウェブで授業見学  
体験クーポン  
無料 付き



Find! アクティブラーナー

# 日本の教育における 本当の危機とは？

日本の教育は今、危機を迎えていると言われています。その問題点として、詰め込み教育、暗記中心の教育であることが度々指摘されます。

PISAによる調査データからは、日本の子どもたちの学力水準は世界的に高いと言われていますが、知識を身につける目的の多くは受験のためであり、ひとたび入試を突破した後はその知識は活用されることはほとんどないことが読み解けます。

しかし、我々は、日本の教育における本当の危機はさらに別のところにあると考えています。

今世界は、第4次産業革命と言われるほどの大きな転換期を迎えていると言われます。一方、日本は2008年を頂点とし、すでに人口減少が始まっています。さらに、平均寿命八十年と言われた日本は、人生百年時代と言われるようになり、今、十五歳の子どもたちは、あと八十五年。

つまり、2100年まで生きる可能性があるので。

2100年の世界はどのような世界なのでしょう。

私たちは、十年、二十年先だけではなく、百年先を見通して、日本教育を考えていくことが必要です。こうした変化に日本の教育が適応できなければ、子どもたちも激変する世界に適応できないことになってしまうのです。

この時代の転換点に適応できるかどうか、これが我々日本の教育の本当の危機ではないかと考えます。

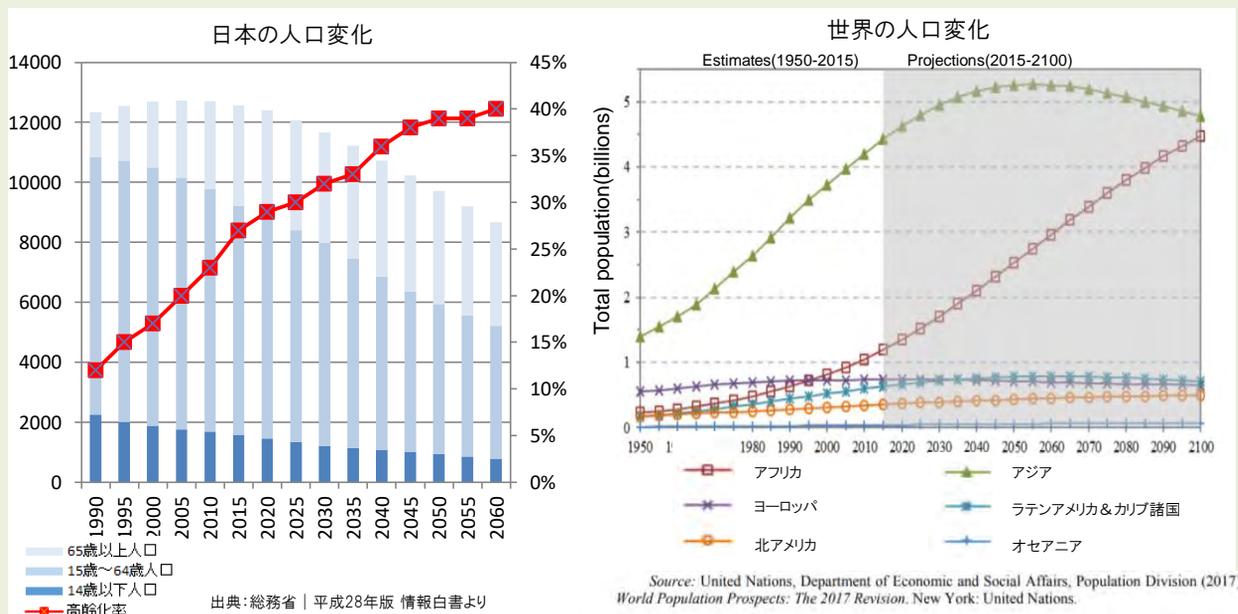
では、日本の教育とはどうあるべきなのか。これからの教育を考えるには、これからの世界がどのように変わっていくのかを知ることが重要です。

そこで、まずはどんな未来が待っているのか確認をしてみましょう。

## 1 人口の変化

アジアとアフリカの人口が増大、日本は人口減少時代に入ります。  
生産人口は3分の2に。

人口動態から西暦2100年の世界を覗くと、現在途上国とされているアジア、アフリカの多くの地域が発展し、人口爆発を伴いながら、世界の大多数をその2地域の人々で占める状況が生まれてきます。



## 2 テクノロジーの進化によるグローバル化の加速

技術の進歩により、国の言葉の障壁も、距離的な障壁もなくなる時代に。  
一緒に学ぶ、一緒に働く時代に。

また、人工知能やVR(Virtual Reality: 仮想現実)・AR(Augmented Reality: 拡張現実)といった技術革新からは、すでに同時翻訳を可能にするデバイスや、場所を問わないバーチャル会議なるものが、実際に社会で活用されはじめている点も無知では済まされない常識です。

言語や距離の壁を越えて、世界中の人たちとグローバルに接し働く社会が当たり前になる中で、どうやらこれまでの教育だけでは決して対応しきれない未来(危機)が迫っているように思えます。

## 3 AI・ロボットの台頭による 職業構造の転換

キャシー・デビットソン氏(ニューヨーク市立大学教授)によるとAIやロボットの進歩により2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろうと言われています。



2018年5月29日にKDDIとTelexistenceにより発表された遠隔操作ロボットの量産型プロトタイプ「MODEL H」。視聴覚や触覚を伝送するテレプレゼンス技術、VR(仮想現実)技術、通信技術やクラウド技術が活用されている。

さて、こうした社会を生きる子どもたちに、私たちはどのような知識とどのような力を身に付けさせてあげべきでしょうか？

- ・ リーダーシップ
- ・ コミュニケーション力
- ・ 創造力
- ・ 情報収集力

いろいろな考えがあるのではないかと思います。私たちはこう考えます。

「主体的に考え行動する力」  
「世界と協働する力」

どんなに世界が変わろうと、周囲や環境のせいにせず、自分の頭で考え、動き改善していける力。そして同じ人種だけではなく、世界の様々な文化や価値観を理解し、尊重し合いながらも協働できる力。

これらの力があれば、どんな世の中になろうとも子どもたちは、環境や変化に屈することなく、自分の人生を切り開いていくことができるのではないのでしょうか。

そして、こうした力を身につけるために進んでいる取り組みの一つが、「アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)」でもあります。

アクティブ・ラーニングってなんだかよく分からない、大変そう、うちのクラスには無理そう、と感じられる方もいるかもしれません。

しかし、アクティブ・ラーニングは、難しいことでも、大変なことでもありません。

むしろ、先生方に教壇に立つ喜びを、生徒に学ぶ楽しさを与えてくれるものでもあります。

さて、どういふことなのでしょう。

その答えは、特集2にあります。次の特集に移りましょう。

「アクティブ・ラーニング  
(主体的・対話的で深い学び)」  
の取り組みが、生徒たちの未来を守る!

# 夢中になる授業

# 退屈になる授業

「生徒が夢中になる授業をしたい」  
先生であれば誰もそう考え、日々創意工夫を凝らし、様々な手法を学び、実践されていると思います。  
では、「夢中になる授業」とはいったいどんな授業でしょうか。  
その反対に、「退屈になる授業」とはどんな授業でしょうか。

ここに、あるデータがあります。「退屈」と感じる授業を受けている生徒の脳の活性化度を表したものです。その状態は、次の①〜③のどれかの状態に近いと言われているのですが、どれだと思いますか？

- ① ゲームをしている時
- ② 読書をしている時
- ③ ソファアに寝そべっている時

もうお分かりですよ。答えは、③です。

少しシヨッキングなお話かもしれませんが、せんが、これだけ先生方が一生懸命に授業を行ったとしても生徒が少しでも、「退屈」と感じてしまえば、生徒の脳はソファアに寝そべっている状態とほぼ変わらなくなってしまうのです。

一方で、「夢中になる授業」は脳科学の観点からみても学習効果が高いと言われています。

図①にもあるように、生徒の興味がわき、わかりやすく理解でき、感動するなど印象に残るような授業は、記憶の定着率も上がり、学習効果が上がります。

それに、せっかく授業をするならば、生徒たちが夢中になって前のめりになるような授業をしたいですね。

では、「夢中になる授業」「退屈になる授業」とは、いったいどのような授業なのでしょうか。

当編集部でこれまで取材させていたさまざまな授業の中には、生徒が「夢中になって受けている授業」と「退屈そうにしている授業」がありました。

そして、それぞれの授業には、ある共通点があることに気づいたので。

### 「夢中になる授業」の特徴

- ✓ 生徒が自分の言葉で説明して、伝えあう機会が多い
- ✓ 色々な教材や教具を活用している
- ✓ 生徒が仲間と協力して解決を図っている
- ✓ 生徒の発言は誤答であっても大切に扱いクラス全体の学びに活かしている
- ✓ 細かに時間を計り、時間を意識させることで集中力を高めている

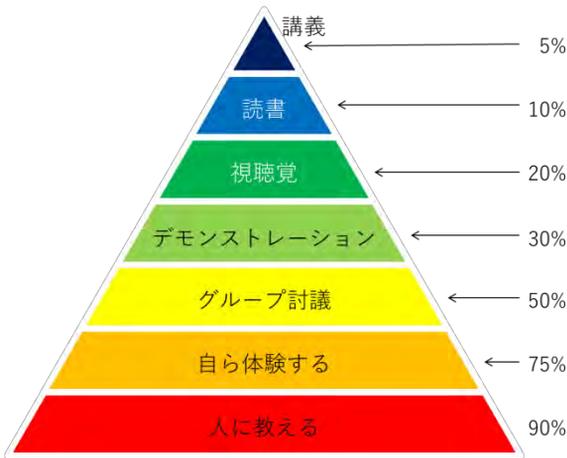
### 「退屈になる授業」の特徴

- ✓ 生徒が自分の意見を発言することや伝えあう機会がない
- ✓ 教科書に従ってその内容を覚えることに終始している
- ✓ 生徒が調べたり、まとめたりする機会がない
- ✓ 生徒が仲間と課題を決めたり、考えたりする機会がない
- ✓ 授業の開始と終了以外の時間に対する意識が欠落している

図① 短期記憶と長期記憶のメカニズム

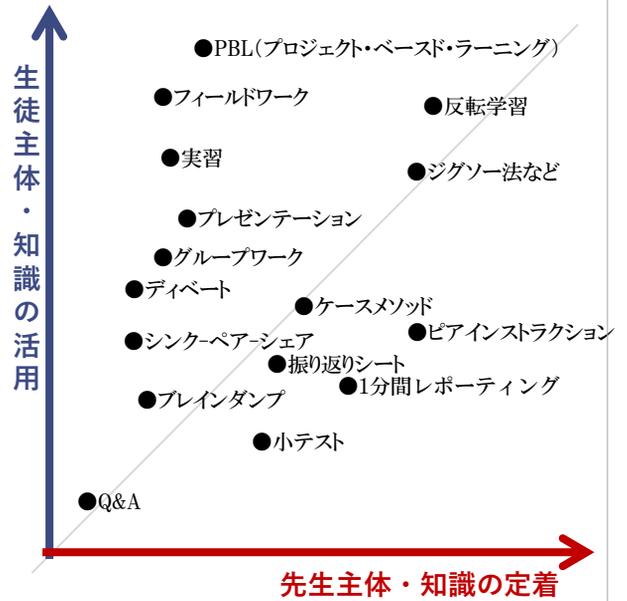


図③ ラーニングピラミッド (平均学習定着率)



出典：National Training Laboratories  
 数字の厳密性にはあまいさは残るものの、記憶のメカニズムをわかりやすく示しており、多くの支持を得ている考え方。「講義」を聴くだけより、「人に教える」ことでより記憶の定着が進むとされている。

図② アクティブ・ラーニングの主な技法



特集Iでご紹介した未来予測の観点に加え、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の取り組みが「夢中になる授業」の実践へとつながり生徒を主役にする!

これらの特徴を見比べていくと「夢中になる授業」の主役は生徒であり、「退屈な授業」の主役は先生であると言えます。

そして、「夢中になる授業」の多くは、生徒たちが授業の主役とされるよう図②のような様々なアクティブ・ラーニングの技法が取り入れられていました。

そして、生徒が主役となる「夢中になる授業」は、有名なラーニングピラミッド(※図③)の考え方からも充分に学習効果が高まると言えます。

# 明日からの授業をもっと 夢中になる授業 にするアイデア

ここでは、(特集1)未来予測の観点からみても、(特集2)学習効果の向上の観点からみても有効である、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)を明日からの授業で取りいれていただくことで、より夢中になる授業を実践していただくためのアイデアをご紹介します。

アクティブ・ラーニングは、2012年に文部科学省の用語集にその言葉が登場してから、全国各地で取り組みが進められてきましたが、今日まで当編集部には、実践に際してのいくつかのつまづきポイントが寄せられています。(次ページ上段ご参照)

このようにつまづきポイントを回避しながら見事に実践されている先生方の取材を注意深く続けていくと、ある共通点があることが分かりました。それは、「すぐにできることから、少しずつはじめていく」ということです。

そこで、当編集部が自信を持って先生方にご紹介するアイデアは、ずばり「1コマの授業の中で、3分だけ工夫をすること」です。

「3分だけでいいの!?!」と思われるかもしれませんが、その3分の工夫だけでも、とても大きな効果を感じられることをお約束いたします。

例えば、以下のような活動が考えられます。

1コマの授業のうち、冒頭で前回授業の振り返りを工夫した教材を活用して行う

質問に対して生徒に挙手、発言させていた箇所をペアワークで行う

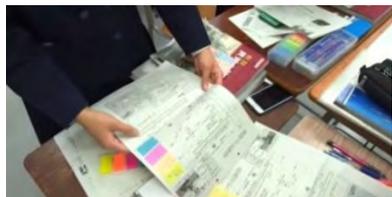
小テストによる講義内容の定着について教具を用いたグループワークで行う

しっかりと準備してじっくりと取り組もうと思っていた先生には、ちよっと拍子抜けかもしれませんね。

しかし、すべての単元、すべての授業でアクティブ・ラーニングの技法を取り入れなくても、たった3分ですぐにできる技法を行うだけで、授業全体の効果性にも変化が生まれます。また、その取り組みが効果的だったのかどうかも、3分という限られた時間だからこそ客観的に振り返りやすく、次に向けた更なる改善にもつなげやすくなります。

なお、最近では、あらゆる書籍や研修会でもアクティブ・ラーニングの技法や活用事例を学べるようになってきておりますので、上記のような小さな取り組みの参考にするとよいでしょう。

最後に、当編集部からも、小さな工夫を取り入れることでとても大きな効果を実現されている先生を何名かご紹介いたします。(※ページ下部ご参照)



静岡県立掛川西高等学校  
吉川牧人先生(世界史)

付箋の使い方を工夫することで、生徒一人ひとりの授業への取り組みを主体的に。



土浦日本大学中等教育学校  
松原大輔先生(物理)

全員が考える授業を実現する「フリップメソッド」で声の小さな生徒の考えもしっかりキャッチ。

小さな工夫で  
大きな効果!  
4人の先生の  
実践をご紹介します

# アクティブ・ラーニング実践時のつまずき 3つのポイント

当編集部に寄せられるお声の中で最も多い3つ

03



## 実践のイメージが持てない

実際に見てみないと、指導案だけではどうやって良いのかイメージがつきにくい箇所があり躊躇する

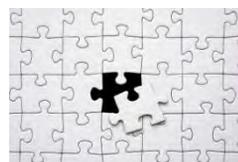
02



## 完璧を求めすぎる

単元全体、授業全体をアクティブ・ラーニング型授業に変える必要があるという誤解により導入のハードルが極めて高くなり躊躇する

01



## 「うちの生徒には合わない」

インプット不足による先入観によりきっと目の前の生徒の現状に合わないと思ってしまう

### 校長先生・学校管理職の先生へ

Find! アクティブラーナーは、学校単位でご導入いただくことで、ご紹介した5名の先生方の授業の他2000以上の教員としての学びとなるコンテンツを校内の全教員にご利用いただけるサービスです。

わずかな費用のみで全教員の自主研修が実現できるので、すでに640校以上にご利用いただいております。

詳しくは冊子の裏表紙をご確認ください。

特別  
クーポン

そして、「百聞は一見に如かず」ですよ。  
なんと、先生がご利用のパソコンやスマートフォンから、こちらの4名の先生方はじめ多くの先生の実践の授業を映像で今すぐご見学いただける方法がございます。  
ご見学は通常は有料となりますが、次のページの「特別クーポン」をご利用いただけますと、今だけ無料でご利用いただけます。  
(※裏面の特別クーポンをご確認ください)



20万人以上の教員が利用する、アクティブ・ラーニング研究サイト

「Find! アクティブラーナー (URL: <https://find-activelearning.com/>)」では、本ページで紹介している先生方の授業見学動画の他、現在2000本以上のアクティブ・ラーニング実践授業動画などを視聴することができます。2018年6月からは、5人の先生による授業改善「5つのアイデア」シリーズも公開がスタートした。

若手の先生にオススメ

教師の学び深まる  
5つのアイデア  
ご案内付き



茨城県立結城第一高等学校  
棚谷克彦先生(日本史)

1分間の振り返り「レビューライト」で、前回授業の内容の知識定着に繋げている。



東京都立科学技術高等学校  
森田直之先生(科学技術研究)

簡潔に説明する力を磨くシリコンパレー発のプレゼン法。30秒で生徒たちのプレゼン力が劇的に向上している。

## Find!アクティブラーナー学校導入版ご利用者の声

### さいたま市立浦和南高等学校 / 校長 加藤浩 先生

教員の授業力向上は、常に図られるべきことですが、出向く時間がないのも事実であるゆえ、勤務場所で効率よく効果的なスキルアップが図れるシステムは、大変貴重であり、重要なシステムであると思います。

### 東京都立大崎高等学校 / 副校長 小林孝行 先生(当時)

学校や自宅にいながらにして、他の教師の授業を見学できたり、有名講師の講演を視聴できる画期的なサイトであり、先生だけでなく、アクティブな生徒を育成するために導入しました。

### 千葉県立流山北高等学校 / 校長 三橋重信 先生(当時)

何事も実際に見てみないと、どうやって良いのかイメージできません。授業改善のための意欲喚起、イメージ喚起のための良いツールだと思いました。

### 神奈川県立生田高等学校 / 校長 額田豊一 先生

特に若手が授業改善を進めていける環境を整える為、導入を決めました。

### 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 丸山岳彦 先生

校長が導入してくださいましたが、授業力向上のためには必要なことと思います。

### 滋賀短期大学附属高等学校 / 寺田隆信 先生

授業改善は、われわれ教師にとって必要な要素ですが、多忙な毎日でそれどころではありません。そんな時、いただく情報が非常に役立っています。今後も授業改善の参考にし、教師力向上に努めていきたいです。

## 無料体験クーポン

無料体験お申込み  
特設ページ  
ご招待



※こちらをクリックして  
特設ページ下部の  
【無料体験のお申込み】を  
クリックください。

ウェブサイトからも無料体験をお申込みいただけます。

Find 学校導入

検索

お問い合わせ先  
03-5908-1425  
info@find-activelearning.com  
(平日10時~17時)